

温泉用目地材 施工上の手引き

＜注意＞従来のセメント系目地材とは性質が異なります。施工にあたり

こちらを必ず読んで標準施工方法に従って施工して下さい。

＜配合比＞(重量比)

- ・主剤(エポアルファー) 1 6 (粘度がある為容器に残りやすいです。すべて出し切ってください。)
- ・硬化剤(エポアルファー) 1 9 (よく振ってからご使用下さい。)
- ・パウダー 6 5

※ホワイト・ライトグレー・ダークグレー・スーパーブラックの場合は上記3点+専用顔料を入れます。

※可使用時間内に使用できるだけ混練するようにして下さい。少量混練する場合は必ず上記配合に準じて計量器を使用して配合して下さい。重量比になりますので計量カップなどの容量比で量らないでください。

配合比がずれると硬化不良などの原因になります。

※可使用時間を過ぎた製品に水や他社品などを加え、可使用時間の延長を行わないで下さい。硬化不良などの原因になります。

※主剤・硬化剤は容器に残りやすいのでしっかりと出し切ってください。出し切らないと練り上がりが固くなります。また硬化不良の原因にもなります。

＜配合方法＞

1. 練樽、練バケツ等に主剤、硬化剤を入れハンドミキサーなどを使用し、液体がムラなく白くなるまで良く混合攪拌します。
2. ホワイト・ライトグレー・ダークグレー・スーパーブラックは、1で混合攪拌した混合液に専用顔料を加え混合攪拌します。※グレーは顔料がパウダーに含まれています。
3. 上記の混合攪拌液に、パウダーを半量または半量以下入れ、混合攪拌を行います。パウダーがしっかりと混ざったタイミングでさらにパウダーを入れ、混合攪拌を行います。パウダーを一度に入れる量は半量または半量以下にして2回以上に分けて混合攪拌して下さい。

可使用時間 夏期約20分 冬期約40分

養生硬化時間 24時間以上 (浴槽内などの水に浸される箇所は48時間以上)

可使用時間・硬化時間は作業環境の温度により大きく影響されます。環境温度が高い程早く硬化します。

※混合攪拌不足は硬化不良の原因になりますので、十分に混合攪拌を行って下さい。

※パウダーは一度に多く入れてしまうと練り上がりが固くなり、使用できなくなることがあります。

＜使用方法＞

1. 混合攪拌したメジ材を、ゴム鏝を使用して目地部に詰め、タイル表面に残った目地材を極力かき取ります。
2. 約5～30分経過後、水を含ませたスポンジを軽く絞り、タイル表面についた余分なメジ材に水を馴染ませるようにスポンジで叩きながら拭き取ります。
水を馴染ませて10～20秒程待つとタイル表面に残ったメジ材が取りやすくなります。
(作業環境の温度や下地等の温度が暖かいほど早く硬化します。夏期は早めに拭き取って下さい。)
拭き取りは目地をなぞるのではなくタイル表面に円を描くようにして拭き取ると掘れが少なくなります。

※この時点で拭き取り水はきれいな水を使用して下さい。

※拭き取り水はできる限り残さないようにして下さい。メジ材が白くなるなどの変色に繋がります。

3. 上記処理後10～30分後、メジ材表面の皮張りが確認されたら再度きれいな水を用いて、スポンジで残りのメジ材を完全に拭き取ります。
4. タイル表面の状況を確認し、良く絞ったウエスで入念にタイル表面を綺麗に拭き取ります。

※拭き取りが不十分だとタイル表面に目には見えない樹脂が残り、乾くと表面に白く浮かんできます。必ず最後の拭き取りを入念に行ってください。(硬化後は酸洗いでも落ちません)

※目地部を補修する場合、メジ材を塗厚3mm以上目地詰めして下さい。

※石材等の目地幅の小さい箇所は強くメジ材を押し入れて下さい。

※使用した道具類は、硬化前は水洗いで清掃できます。

<使用上の注意>

- ・表面に細孔のあるタイル・石材や凹凸面のあるタイル・石材、吸水率の高いタイル・石材は焼き付いたり、顔料などが入り込んでの変色、黄変する可能性があります。事前にテスト行ってからご使用下さい。
- ・白色の石材は目地部から樹脂が染みこんで、後に黄変する可能性があります。事前にテストを行ってからご使用下さい。
- ・一度反応硬化したメジ材は水や酸洗い、シンナーなどの溶剤等では除去できません。メジ材拭き取り時に完全に拭き取って下さい。
- ・温度が高い箇所での施工や直射日光や風の当たる箇所での施工において、メジ材の水分がすぐに蒸発し、メジ材が拭き取れなくなります。状況に応じて早めに拭き取るようにして下さい。
- ・油脂、ほこりが残っている箇所、水濡れ下地への使用は避け、施工は5℃～35℃以内の環境温度で行って下さい。
- ・可使時間が短くなるのでメジ材は直射日光に当たらないよう使用直前まで段ボールに入れておいて下さい。
- ・主剤・硬化剤・パウダー・専用顔料以外は絶対に入れないで下さい。
- ・廃棄については、環境基準に沿って処理して下さい。
- ・肌に触れると肌荒れする場合があります。保護手袋等で安全を期して下さい。
- ・保管は、5～35℃の温度で子供の手の届かない、水濡れしない冷暗所で保管して下さい。